

ニュースリリース

平成 23 年 10 月
東洋建設株式会社

震災復興支援イベント 佐原 de さんま祭り を開催

10月22日(土)、当社(社長 毛利茂樹)はPFI佐原リバー株式会社(社長 緒方一幸)と、今年3月11日に発生した東日本大震災からの一日も早い復旧と復興を祈念し、『佐原 de さんま祭り』を開催しました。

これは当社が施工し、当社の出資によるPFI佐原リバー株式会社が運営する、川の駅・道の駅「水の郷さわら」(千葉県香取市佐原イ4051-3)において、気仙沼と銚子で水揚げされた新鮮なさんまの塩焼き約3,000尾を来場者に無料で食べていただくというもの。さんまのほか千葉県香取市産の旬の農産物も無料配布するなど被災地の農業振興や水産振興をお手伝いしながら、地域の皆様にも喜んでいただける行事を目的として企画したものです。

前日から心配されていた天候も明け方には回復し、晴れ間も見える午前11時前から開会式が行なわれました。

開会式では、PFI 事業者の緒方社長が、「震災に対していろんな支援の仕方はあると思うが、こういうイベントをきっかけにまた新たな絆ができたらいと思う」と挨拶。

毛利社長は今回の開催について、ひとつには被災された皆さんになんとか元気を出していただくよう会社として何かしたいという想い、さらには当社の社員がたまたま目黒のさんま祭りに参加したことから、目黒や気仙沼の方々とのつながりができ、今回のイベント開催につながったという裏話を披露しました。

続いて、気仙沼からさんまを運んで下さった目黒のサンマ祭気仙沼実行委員会の藤倉清喜さんが毛利社長にさんまを引き渡し、U字溝を連結して作った長さ30mの特製炭焼き器で一斉に焼き方がスタート。

常時200人ほど順番待ちの列ができる大盛況となり、訪れた家族連れは、次々と焼きあがるさんまを、美味しい美味しいと笑顔で頬張り、現場に設置した義援金箱にも多くの義援金が集まりました。

さんま焼き隊として、このイベントにボランティアで参加した当社の役職員(本社、関東支店、関係会社)は総勢150名あまり、著名な「目黒のサンマ祭」のイベント熟練者を技術指導としてお迎えし、国土交通省及び香取市の職員のみなさまもボランティアとしてご参加を頂きました。

この焼き隊は、暑さのなかで3時間半、集中力を切らすことなく、3,000匹のさんまを焼き続けましたが、みな充実感一杯、疲れのなかにも満足の笑みを浮かべていました。

募金総額 88,898 円

主 催 PFI 佐原リバー株式会社

共 催 東洋建設株式会社

協 力 国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所

香取市

川の駅・道の駅 水の郷さわら

目黒のサンマ祭気仙沼実行委員会

NPO法人 j t & c



気仙沼からさんまを運んで
下さった藤倉さん



緒方社長(左端)と毛利社長(左から二人目)の掛け声で焼き方開始



座席も一杯の盛況ぶり

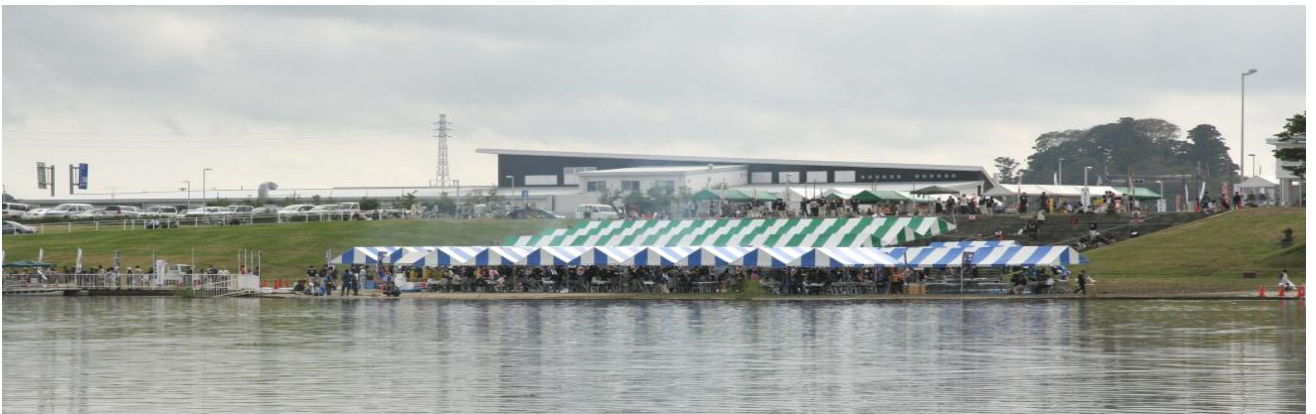


焼き上がりまでもう一息





毛利社長もトングを持って焼き方に参加



みんなで楽しみながら復興支援ができ、実に気持ちのいい一日でした